

「問うべきは知事や裁判所の適格性」

県検証総括委員会・前委員長
池内了さん大いに語る
柏崎刈羽原発問題シンポ

市民連合・上越は7月29日、市民プラザを会場に「池内了さんと語ろう！ 柏崎刈羽原発問題」シンポジウムを開催しました。

この日は、県の検証総括委員会の委員長を一方的に解任された池内了さん(名古屋大学名誉教授)をはじめ、避難委員会副委員長の佐々木寛さん(新潟国際情報大学教授、市民連合@にいがた代表)、健康生活委員会委員の木村真三さん(獨協医科大学准教授)などの専門家が顔をそろえ、さまざまな面から原発の問題を語りました。

最初にお話しした池内さんは、「福島事故の検証を政府も国会も行わない中、新潟県が検証委員会を立ち上げたことには大きな意義がある」と検証委員会の重要性を強調しました。そして、「私は科学者として納得できる検証総括を提案したが、知事は『県が依頼したのだから県の意向に従うべきだ』として解任した。東京電力の適格性が問題になっているが、知事や裁判所の適格性も問われるべきだ」と経緯を説明しました。

今後は、市民総括委員会を発足させ、市民検証総括をまとめ、再稼働させない



運動を盛り上げると決意を語りました。

続くシンポジウムでは、進行役と4人の語り手がそれぞれの立場で問題を指摘しました。

木村さんは、「避難委員会の中には福島事故の現地研究者がいない。柏崎刈羽で事故が起きたら、食べられるものなくなる。事故を想定して今から線量を測定することが必要。原子力規制委員会は原発を動かす努力はするが、停める努力をしていない」と述べました。

また、佐々木さんは、「福島原発事故では広島原発の168倍もの放射線が放出された。原発がテロ攻撃を受けるとその数千、数万倍になる。中国のミサイルは日本の全原発を標的として設定しているといわれている。避難そのものが成り立たない。原発はエネルギー政策としてだけでなく、社会のあり方が問われている」と指摘しました。

日本共産党上越市議員団ニューズ
No.799 2023年8月6日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

3週連続 大幅増加

上越保健所管内
新型コロナ感染症
感染者定点報告数

7月10日～7月16日 10.25 (県 7.88)
7月17日～7月23日 15.00 (県 12.98)

あいおいが暮らしやすい
11の鍵

- ①新婚生活のスタート応援
- ②家を新築すると奨励金
- ③妊活を応援
- ④子ども誕生祝い金
- ⑤18歳まで医療費無料
- ⑥子育て応援チケット配布
- ⑦幼稚園は3歳から
- ⑧4・5歳児無料預かり保育
- ⑨幼小中給食費完全無料
- ⑩現代版の寺子屋
- ⑪「英語耳」充実の英語教育

残念なことには、その後、周辺市も同様の子育て支援策を打ち出す中で相対的に先進性が薄れ、ここ数年は再び人口が減少していることとです。しかし、子育て世代の中では、「子育て応援都市、相生」という評判が広がり、定着してきていることでした。

すでに12年前に 「子育て応援都市宣言」 兵庫県相生市の先進事例に学ぶ

上越市議会厚生常任委員会(平良木議員所属)はこのほど管外の行政視察を行い、先進事例を詳しく学んできました。

兵庫県の相生(あいおい)市は、岡山県境に近い瀬戸内海沿岸の、かつては造船で栄えた市です。大手造船会社の縮小などで、近年は人口が減る一方だそうです。

ここでは、年少人口(15歳未満が県下最下位であったことから、将来の人口減少対策が最重要課題であるとして、「子育て応援都市宣言」を行い、子育て世代をターゲットに定住促進を図ることを大方針に掲げたとのことです。この宣言を行ったの

は2011年です。今から12年前。給食費の完全無料化や高校までの医療費無料化など、当時としては最先端を行く11もの子育て支援施策「あいおいが暮らしやすい11の鍵」を打ち出し、次々に実施してきました。

その結果、2013年、2015年、2016年には転入者が転出者を上回る成果を上げたとのこと。

このことは、子育てしやすい思いきったまちづくりを他市に先駆けて行い、その魅力を広くPRすることで、他県からの移住者も含めた定住者を確保することができたことを示しています。

好評発売中 橋爪議員ついに10冊目 エッセイ集「花嫁行列」



橋爪議員10冊目のエッセイ集。現職市議会議員として活動しながら、様々な出会い、感動の数々をほぼ毎週執筆。今回のエッセイ集は、2017年1月から翌年の8月までに書いたものの中から60篇を選びまとめたものです。「花嫁行列」「思いをカタチに」「涙が止まらない」「牛とともに」など地域の出来事や家族、親戚のことなど読んでほのりする話がいっぱいです。また、挿絵も橋爪議員本人の筆によるものです。ご希望・お問い合わせは左端連絡先へ！